

第7回

新宿区次世代育成支援計画策定協議会

平成16年6月14日(月)

新宿区福祉部少子化対策担当

午後 1 時 0 3 分開会

事務局 では定刻を、1 時を少し回りましたので始めさせていただきます。

本日は、会場が大変分かりにくい場所になってしまったことをお詫び申し上げます。迷わずにいらっされたでしょうか。でも、先生はちょっとお転びになられたとか。バリアフリーはやはり大切だなというふうに思いました。

では、ただ今から第 7 回次世代育成支援計画策定協議会を開催いたします。

初めに、事務局から連絡等、資料の確認をさせていただきます。本日、汐見副座長が体調不良のため、ご欠席の連絡がありました。加藤委員も出張ということでご欠席です。松永委員が多少、15分ほど遅れるという連絡が入っております。また、日高委員もちょっと遅れるという連絡をいただいております。

次に資料です。資料の 1 から 3 がございます。資料の 2 は事前送付させていただいたためでございますが、送付後、事務局で再度整理したものを本日ご用意させていただいておりますので、そちらの本日お配りしている資料 2 と付いている方を資料としてご活用いただくようお願いいたします。

資料 1 は、次世代育成支援計画地域懇談会開催状況（第 1 回から第 4 回）ということで、写真の入ったものでございます。資料 3 は、6 月、今月、国の方から出されました少子化社会対策大綱、これを資料としてお配りしております。

また、机上配布資料として、主に情報提供でございますが、いくつか配布しておりますのでご説明させていただきます。

まず 1 つが、次世代育成支援計画の提案ということで、落合社会教育会館の懇談会に参加された方から、後日また文書で、このような形で区長、策定協議会、また事務局あてに送られてきているものでございます。

それから、幼稚園と保育園の一元化についてという資料でございますが、新宿区はこのたび、四谷地区と中町、愛日小学校地区ですね。中町保育園、愛日幼稚園を幼保の一元化の方向を出しましたので、その資料でございます。

それから、その次が、これは朝日新聞の記事ですが、合計特殊出生率が 1.29 ということで、これは年金の改革と絡んで大きく取り上げられた部分もございまして、情報提供としてコピーをいたしました。

次に、いくつか区の方でも幼保の他に動きがございますので、その資料をホームページのニュースリリースのところからコピーをしております。1 つがスクールコーディネータ

一の小中学校への配置、また次が、これは新聞等にも記事になりましたが、公園作りのワークショップが始まっておりますので、その記事でございます。

それから、その次のものが新宿区、地域との共同推進計画の中からの抜粋と、社会福祉協議会でやっております地域の団体の助成事業ですね、その状況です。これは、どうして資料として出させていただいたかと申しますと、議論の中で、地域のこれからは、自主団体ですとか、そういうものへの支援が必要だということで、区の方向性はこういうものが出てくるのかということと、吉澤先生から何度かご指摘がありましたけれども、社会福祉協議会の方でやっているふれあいまちづくり事業というのがあるでしょうということで、ご意見をいただいておりますので、私どもの方で調べたところ、ふれあいまちづくり事業は5年間の国の方の期間限定の補助で、それはもう新宿区は終了していて、その後はその事業を引き継いだ形で、これらの団体にふれあいまちづくり事業助成ということでございますけれども、こういう形で社会福祉協議会の事業として行っているということの資料でございます。

その次ですが、これはユニセフの、日本ユニセフ協会が出してございます、子どもの権利条約についてのペーパーでございます。これはどうして出したかと申しますと、6月6日の榎町の懇談会のときに、計画の中で子どもの権利を大切にすることが述べられているけれども、子どもの権利自体の概念がきちんと書かれていないということがございまして、その時に参加された方から情報提供としていただいたものでございますので、今後、これをどのような形で盛り込んでいくかということについての参考資料でございます。

その次は、新宿子育てつうしん。これは新宿子育てを考える会からお配りしてほしいということで送付されたものですのでお付けいたしました。

以上が資料のご説明でございます。

それでは吉澤座長、進行の方をよろしく願いいたします。

吉澤座長 もうお顔を見ましたら、何となく久しぶりの方がいらっちゃって、それぞれがそれぞれの地区の懇談会にお出いただいて、いろいろな感想やご意見やら、あるいは要求やらといろいろおありになったかと思いますが、そんなことを今ここに、今日いただいている中に写真入りで資料1という中にずっと出ているかと思いますがけれども、これは文字でございますので、やっぱり肉声のコミュニケーションが大事だろうと。そういうところからニュアンスなんかを含めて少しご報告いただいて、ただ感想だけではなくて、その中からこの策定のまとめですね。これは今日、中間報告という形で整理はしてくださって

いますけれども、これをどんなふうな形で生かしたらいいかというふうなご意見も含めてお話しただければというふうに思います。

今日は何を結論とするかということではなくて、中間報告的なことですから、何でも自由に言っていただくということで進めていただければ幸いかなというふうに思いますが、どうでしょうか。最初にこれについてちょっと事務局からまとめて整理してくださったことで何かありますか。特に、言っていただければ、それで入りたいですが。これですね。両方含めてで結構です。

事務局 まず懇談会の開催状況の方からですが、まず1ページ目がそれぞれの開催日時と参加状況です。写真を見ていただければ、どのくらいの人数が参加されたかというのが雰囲気つかめると思いますが、2回と4回、高田馬場、戸塚特別出張所地区と大久保地域センターの方は、多少参加人数が少のうございましたが、落合社会教育会館と榎町の方は15人以上の方が集まっていたいて、それぞれ少ないところは少ないなりに、ある程度出席人数があったところは、それにふさわしい形で意見交換ができたのかなというふうに思っております。

それほどたくさんの方がいらっしゃったわけではないんですけれども、単に質疑応答ということではなく、次世代育成についての懇談会という形では、これぐらいの人数でよかったのかなという感想も持っております。ほとんどの会で、すべての方がご発言いただけるような会ができました。かなりゆっくりいろいろなご意見を述べられる方もいらっしゃいましたので、それはよかったのかなというふうに思っています。各回に委員の皆様もご参加いただいてご意見等をいただきましたので、それもありがたかったと思っております。

このレポートにつきましては、ほとんど事前にメールで来たもの等についてはメールで、またあとファックスでもお送りしておりますので、またそれぞれの皆様が、その回ごとの感想と言うときに、これを元にある程度感想を言っていただければいいのかなと思います。

私の感想としては、戸塚の地区では主に既存の組織に入っていない方への情報提供ですとか、そういう方の関わりというのを区はもっと視点を持つべきだというふうなご意見をかなり時間を割いておっしゃったのかなというふうに思っております。

それから、落合の社教会館では、男性の育児参加の問題を提言された方もいらっしゃいましたし、少子化の対策ということについてのこの目標設定ですとか、そういうものについての問題提起もございました。また、区としてネットワーク作り、保護者の方たちのネットワーク作りをしていくことの視点で、なるべく利用しやすいような形をするべきだと

いうふうなご意見ですとか、既存の資源を有効活用してほしいというふうなご意見もありました。この回は、保育園の職員ですとか、学校の先生もいらっしゃいました。

次に大久保の地域では、それほど人数は多くなかったんですが、1人親の、特に特殊家庭の方もいらっしゃいまして、1人親への視点がこれでいいのか、母子家庭、父子家庭を区別しているということについての疑問、それから外国人への視点をもっと持つべきだというようなことを、それからまた、そういうものについてどのように反映していくのかということについてご意見をいただきました。

榎町のところでは、やはりここではかなり人数もいらっしゃって、さまざまご意見が出ましたけれども、先ほど申しあげました権利のことですね。その視点がきちんとしていないということですか、あとは経済、最後の方になってあまり議論ができなかったんですけれども、経済的支援の要望が多いんですけども、保育料についてどのように考えているのかということですか、あと地域へのつながりでの事例を報告された方もいらっしゃいました。あと、教育について語られていた方が何人かいらっしゃいまして、福祉と教育の連携ですとか、学校の、開かれた学校のあり方ですとか、そういうことについてのご意見があったように思います。また、皆様から後から補足でいただければと思います。

それから、資料2ですが、素案の中間のまとめということで、これまでの策定協議会、それから地域懇談会、シンポジウム、また素案に基づいて皆様からいただいた意見について、まだ反映できていない部分もございますので、そういうのも含めて、特徴的な意見を盛り込んでおります。ただ盛り込むだけだと、なかなか論点をはっきりしないということで、いくつかそれぞれの論点を整理させていただいています。一応論点について読み上げさせていただきます。

まず、計画全体についてですが、新宿区の特徴、課題に対する施策。特に重点施策は課題を把握して、適切に施策体系としてなっているかということです。

それから、論点2が少子化対策としての目標が適切であるかということで、何人かの方からいただいております。区の計画としては子育てしやすいまちづくりをすることで、子どもを生み、育てたい人が育てやすいまちづくりをするんだということをこの計画で打ち出しておりますが、もう少し直接的に少子化対策としての色を出さないといけないのではないかというご意見がございました。

それから、次に計画の進行管理ですが、論点3として、庁内のチェック体制をどうするかということで、庁内では、区長直属の体制などを作るべきというご意見です。

それから、論点4は地域の意見を反映させていく仕組みをどう作るかということで、この計画はやはり作った後も地域の実情などを聞きながら、きちんと進行管理していくとともに、意見を反映して見直しもかけていくということが大切であるということで、それをどういうふうにしていくのかということのご提言です。

それから、次に目標別に入りますが、目標1、子どもの生きる力と豊かな心を育てますというところでは、提案で子どもの権利の内容を明記したらどうかというのがございました。また、もう1つ提案で、子ども同士の意見交換の場を設けたらどうかという提案がございます。

それから、論点として、中高生の視点をどのように盛り込むか。

次に、提案として中高生の居場所づくりについてということで、気軽に遊べる場所とか、何も求められない場所、そういうものを作っていったらどうかというようなこと。それから中学生と赤ちゃんの交流事業が、今子ども家庭センターで取り組んでおりますが、幼稚園児、保育園児とのふれあいの方が実現しやすいのではないかという提案です。

次の提案は、公園以外の資源の活用も進めたらどうかということで、今遊び場としては公園の、既存の公園の再生ということを打ち出しておりますが、このご提案ではそれ以外の、例えば緑地とか坂道などを活用した遊び場ですとか、子育て散策路ということのご提案です。

次に論点6。児童館に求める役割の明確化ができていくかということで、児童館の部分がございしますが、それをさまざまなご意見があるものをきちんと、あの中で文章化ができていくのかということにはちょっとチェックする必要があるかなというふうに思いました。児童館が非常に地域の中で、子どもの育成に対して大きな役割を果たしているというような非常に大切だというご意見がある一方、使いにくいというふうなご意見もありますので、その辺の役割ですね。今後の方向性が明確化されているのかどうか。それから、住民を参加させるシステムというのがやっぱり必要ではないかというご意見がございます。

また、論点7として、学校は地域の子育て支援にどのように貢献できるか。今、開かれた学校づくり、特色ある学校づくりというのを新宿区は進めておりまして、計画の中でもそのようなことをうたっておりますが、もう少し、実際にはまだなかなか区民の方の実感としては、そうではない部分なども地域懇談会の中では出されておまして、それがきちんと計画の中で、今後の方向性として出せているかどうかということを検証した方がいいのかなというふうに考えております。

次に目標2です。7ページをご覧ください。「利用しやすいサービスですべての子育て家庭をサポートします」では、論点8、サービスの質の向上と使いやすい提供の方向性は適切かということで、これについてはさまざま議論がされておりまして、計画の中でも利用者に届く情報発信ですとか、きめ細やかな子育て支援サービスの充実ということを出しておりますが、それがきちんと目的に合ったものになっているか、実効性があるのかどうかということ一度検証しようという視点でございます。

論点9は、どうしても必要な人に情報やサービスを届けることができるかということで、これも同様な流れで、利用者に届く情報発信ということで打ち出しておりますが、これで十分なのかどうか、ご議論いただければなというふうに考えております。

次に提案5、サービスが必要な人とサービスをつなぐ人を地域に増やそうという提案です。これはなかなか支援が届かない方がいらっしゃり、その中で虐待等の恐れがある要支援家庭なども生まれやすいというような状況の中で、サービス、必要なサービスがあってもなかなかそういう人には伝わっていかない、つながっていかないということについての提案だったかと思いますが、地域の中でそういう方々を育てていこうというご提案です。

これにつきましては、子育て仲間づくり事業など、新宿区では立ち上げておりますが、他にもっとないのかとか、これで十分なのかということについて、もう少しご提案いただければいいのかなというふうに思っております。

論点10は、相談窓口はわかりやすいか。これもさまざまところで言われていることで、区では総合コーディネート事業というものを今後考えていきますけれども、やはりそれもきちんと機能するものになるように皆様のご意見をいただければということです。

次に論点11。孤立家庭、ハイリスク家庭への対応は十分かということです。このあたりもかなり議論が出ているところですが、新宿区では育児支援訪問事業等も今検討しておりますので、そういう中で解決できるのかどうか、検証が必要だと思います。

次に論点12。外国人家庭への対応は十分か。特に支援が必要なところの項目で、外国人家庭への支援ということもうたっております。その中では主にコミュニケーション支援ということをやっておりますが、地域の中では、何かもう少し踏み込んだ形でできないのかなというふうなご意見もございましたので、また外国人の視点がちょっと弱いのではないということもございましたので、ここに挙げております。

次、論点13。ひとり親家庭へ施策の方向性は適切か。先ほども申し上げましたように、ひとり親、母子家庭、父子家庭などの表現があるが、そのような形ではなくて、ひとり親

全体を見渡してほしいというふうなご意見がありましたので、今ここに書いているものが適切なかどうか検証したいということでございます。

論点14。経済的支援を強化すべきなのか、優先させるべき施策はなにか。経済的支援の要望はアンケートの中で、就学前、小学生とも1位でございました。就学前では70%を超えていたでしょうか。小学生が68%ぐらいということで、これについて、この計画では基本的には国・都の役割ということで、現在行っているものは継続しつつ、国・都へ要望していくという整理をしておりますが、これについては、これでいいのか、またはもし経済的支援がこのままであるとすれば、もっと優先させるべき施策というのはどういうものがあるのかという論点でございます。

次に12ページ、目標3、「子育てと仕事が両立しやすい環境づくりを進めます」で、論点15、保育サービスは十分かということで、これについては特に地域懇談会の中ではたくさんのお意見はなかったように思いますが、大久保では24時間保育が今年スタートしましたけれども、他の地域でも必要なのではないかというご意見とか、学童クラブの学校内併設ということで、計画の中では統廃合による新築、改築時等、校内にスペースが確保できる場合に検討としておりますが、そういう場所以外でもできないのかというご意見だったと思います。

次に目標4、「家庭・地域の子育て力、教育力をアップします」で、論点16で、この中でも子育て支援の場をつくるための施策というのが必要だということがございましたが、その施策展開について十分かどうかということでございます。

論点17、地域の子育て力を高めるための方策は十分かということで、主に地域との協働を進めるということをやっておりますが、既存の組織についてのご意見、それから次の論点18では、新しいネットワークをどういうふうに作っていくのかこれまで既存の組織で動いていない方々でさまざま今動きがあると思いますけれども、そのネットワークをどのように作っていくのかという視点でございます。

次に15ページは提案6です。地域の大人の意識改革のための提案を出そうということで、大人の方の意識改革がとにかく必要だというご意見がありましたので、これはもし具体的な案が出てくるのであれば、提言として出せるのかなというふうに思います。

次に17、安心して子育てできる都市環境をつくり出すということでは、子どもの安全とか、子育てしやすいというご意見が出ていますが、特に論点はなかったのかなというふうに考えております。

その他ですが、提案7は庁内の連携をもっととってほしいということです。それから論点19はいくつかの場所に出されましたけれども、多様な運営主体という表現を使っておりますが、多様な運営主体ということは主に民営化ということで、それが、質が低下するのではないかというようなご不安を持っている方がいらっしゃるなということで、果たしてそれは質の低下なのだろうかということが論点だというふうに捉えました。

この右側に書いてありますページと項目がそれぞれのところに一応反映していますよ、今の段階では反映していますよということで、ページ数と項目が入っているものでございます。提案の中で、これから検討しなくちゃいけないこともありますので、その辺をご議論いただければと思っております。

では、以上です。よろしくお願いいたします。

吉澤座長 ありがとうございます。

丁寧に説明いただいたわけですが、さて、もうあとは自由な形でお話を進めたいと思いますが、とりあえず入り口として感想的なことでもいいんですが、いかがでしょうか。どこでもいいですよ、この順序ではなくて。どうでしょうか、どなたか。何々地区でも、随分たくさん参加して下さった方もおいでになるでしょう。1箇所、2箇所、3箇所ぐらい、まだこれからあと3箇所あるんですけど。でしたかね。いかがでしょうか。

どうぞ。

合澤委員 これ、ちょっと順序が逆になるんですが、子どもの権利と、これは私も書きましたが、やはりここまでうたってあるのであれば、詳しくは条文的に書かなくてもいいですから、一般的に理解していただける、そういう条文みたいなものを載せたほうがやっぱりいいのではないかと申しますのは、私も権利条約という意味が、よくお母さんたちと話をするんですが、意外に具体的にわかっていないというのがあるんですね。だから、多分榎の方でもこういう声が出たと思うんですね。これはぜひ載せていただきたいなと思っております。

それから、地域の今組織されているいろんな団体とか組織があるんですが、それが意外に連携がとれていないというのを、実際に動いていまして、これはもったいないというのを感じております。だから、思い切って、区の方で行政の方で大きな組織があるのであれば、そこでうまくお母さんも含めて、小さいお子さん、そういう方とその中で含んで活動していったらいいのではないかなというふうにいつも感じます。というのは、地域

の人がそこにいますので、できるのではないかなと。お母さんたちもそこに一緒に子どもと入っていけるという部分がありますので、それを活動の中から感じております。

吉澤座長 なぜ、入っていけないんですかね。

合澤委員 というのは、これは名前を具体的に出不せないとわからないんですが、育成委員会という大きな会があるんですが、その中には、これは今、目的が小学生以上、子どもを対象ということですので、現在のところは小学生単位、ただ中学生は現状としてはあまり参加していないという、そういう現状なんですけど、そこをもう少し考えて、やはり幼稚園とか小さいお子さん、そういう方を含めて動ける内容にしていくと。お母さんもちろん入ってきますので、それも何かいいチャンスではないかなと私は思っております。

吉澤座長 しつこくてごめんなさい。それは、活動プログラムなんかと関係あるんじゃないかな。

合澤委員 そうですね。対象がどうしても長年の歴史がありますので、私も入っていましたけれども、やはり青少年を対象ということですので、どうしても、今は幼稚園の子は入っているところもありますが、小さな二、三歳の幼児とか、そういうお子さんというのはちょっと除外なんです。だから、ちょっとそこに行き、イベントを変えて、そういう場を1つでも作っていただくと地域がつながるのではないかなという感じがします。

吉澤座長 何か関連してご意見ありますか。ご意見というかご感想。

どうぞ。

小林委員 既存の組織の問題なんですけれども、実際に子育てをしている今、ちょっと意見も出たんですけれども、その人たちにそういう組織があるということがわかっていないということと、もう1つ、ちょっと育成会のことになってしまうんですけれども、ちょっとたまたま私、別な活動で、育成会にあるプログラムを提供したんですけれども、新宿区の2箇所において。そして若い方はそれをやりたかったんですけれども、上の方の会長さんたちが自分たちに話もしないで勝手に進めたということで、2箇所ともつぶしてしまって、1つは組織を別に作って、他の人に声を掛けて、実際にやろうということになったんですけれども、もう1箇所の方の方は、結局、若い人がそんなでしゃばりをしてというふうに言われて、結局ダメになってしまったという、ちょっと近々に2つほど、直接ちょっと関わったことなので、何か若い方がすごく気の毒で、それもかなりひどいことを言われたという。何かその辺の、確かに育成会の活動ということも必要なんだろうけれども、そのものの組織自体を、少し見直すようなこともした方がいいのではないかなと、割と縦の社

会になってしまっていて、若い方の意見が果たして、その育成会で反映されているのかと。だから例えば中学生が参加できるようなイベントというか、活動が芽生えてこないのではないのかなという、ちょっと関係してみて感じたことなので、その辺も言葉は悪いですけども、活性化するというのは簡単な言い方なんですけれども、ありふれた言い方なんですけれども、その辺をちょっと考えた方がいいのではないのかなというふうに感想を持ちました。

吉澤座長 ちょっと厳しいかもしれないけれども、育成会という名のもとに育成していないという。育成会とは名ばかりで。

小林委員 いや、そうとも言えないですけども、やはり硬直化してしまっている部分があるという。特に新宿区は若い人の入れ替わりは多いんですけども、割と都心部はこうして家を持ってという方がずっと長く住んでいらっしゃるというところがあるので、その辺の若い入れ替わる人たちをどう育成会はフォローできるかということが現実的にどうなのかなというのがちょっと。

合澤委員 あとは町会なんですよ、一番身近な方は。ただ現実には若い方というのは町会にあまり入っていないので、どちらかと言うとどこか活路開かなければいけないから、せっかくそういうがあるので、現状のままでは私も賛成ではありません。ただ、それを何とかできないかな。

中学生もそこで活動ができるんですけども、現状は中学生も入っていないですね。だから、そこでどこか打破していかないと、このままでいけば区の方も予算的なものをつけてやっていますし、中には若いPTAもそこに入っていますので、お母さんたちがそこで理解して、少しずつでも変わっていけば、すごくいい場所になるなと思ってはいるんです。今、小林さんがおっしゃいましたように、現状ではちょっと無理だと思います。まず壁を崩すというのがまず一番大変だし、それをずっとそのままやっていけば、ここがそういうふうに変っていくとすごくいい場になると思うんですけどもね。

吉澤座長 どこがどう変えたらいいんですかね。

金澤委員 育成会は、前は青少年対策委員会と言っていたんですけども、要するに長い歴史があるから、毎年毎年、去年の行事をやっていくだけで結構手一杯なんです。だから、新しいものを取り入れる余裕もないし、幹部の人たちの頭も、もうそれをやるのがもう先になっていますから、中学生を入れようと言っても「そうだね」といいながら、では何をしたいかわからない。1回でも計画をして呼ぶんですけども、もうその後が続かない。

それで次の年はそれもカットする。

だから、組織の連携をとるとというのは、そういうものの活性化にもとてもいいと思うんですよね。あまりにも何十年やっていて、その通りにやらなければいけないという、今そういう時代ではないので、お互いにいいところをとり合って、いろんな組織がありますから、もうちょっとこうした方がいいとか、ここはもうやめた方がいいとかと、そういうこの組織の連携がとれていない、とった方がいいというのは、私もすごく賛成ですね。

小林委員 私がちらっと聞いたのは、榎と箏箏で何か映画会をやったんだけど、それがちょっとすごくもめたという話をちらっと聞いて。

金澤委員 前は別々でやっていたんですよね。

小林委員 別々にやっていたのを一緒にやったら、箏箏の方でやったんですね。

金澤委員 ええ、会場がなくてね。

小林委員 会場がね。そうしたら、何かそれが後でちょっともめる原因になったとちらっと聞いたりしたりすると、その連携のさせ方もすごく難しい。誰がどうやって、どういう方向であるのかというのが一番難しいのかなという。多分、皆さん、わかっているんだろうと思うんですよね。ただ、現実的な問題として、誰がどうして、どういうふうにそれを組織編成し直すかということが難しいのかな。一番難しいのがそこにあるのかなと思います。

金澤委員 全然子どもを取り入れていないし、子どもの姿も見えないでやっているような状況だから、だんだんやめていってしまうんですよね、みんな。

松永委員 お互いの立場を立てあって、大人の中で、育成会の中で、2つの中でお互いの立場を気遣うあまり、顔を立てているという状態になってしまうということですよ。

小林委員 ちょっとよくわからないですけども、私が直接育成会に入ったわけではないから、ちょっとよくわからないんですけども。

合澤委員 中高生があまり魅力を感じていないというのが大きな原因で、というのは、たまにキャンプなんか行くときに、中高生が中心になってやるんですよね。そうすると子どもたちがすごく、というのはやはり高齢者の人は口ばかり言っていて面白くないし、だからやっぱりそういう壁を崩していかないと、逆に中高生の出番という場もないんですよ。気持ちがあっても、結局一切大人の言うとおりに、ただ指図する。それが悪かったら怒られ……怒られるって、生命に関わることもありますので、難しいかもしれません。

いつも見ている、自分の地域の中学校にしても、そういう組織ですから、自分たちを使ってやってくだされば、子ども自身も年齢の近いお兄さんたちと遊ぶのをすごく魅力を感じ

じているんですよね。だから、それがだんだん、小さい方の子で、そうすると家族で参加するようになりますので、何かもったいないなと。いろんなことがありますけれども、それはちょっと感じています。

吉澤座長 各地域の特徴で感じたことは何かありますか。

どうぞ。

金澤委員 私、大久保の地域懇談会に出たんですけれども、ここにも書いてありますように、母子家庭、父子家庭となぜ分けるのか。これからの時代は本当、父子家庭がだんだん多くなると思うんですよね。だから、そうかと言って父子家庭に対しての手当てとかそういうのは結構母子家庭の方が多くて、父子家庭があんまり優遇されていない部分があるので、やはりこれは分ける必要があるのかな。これから見ていく段階では分ける必要はない。ひとり親家庭という解釈で、母子だから、父子だからということは必要ないのではないのかなというのは、この間の大久保のときに話しました。実際、父子家庭のお父さんが出席していましたので、あの地域は結構、そういう方もいらっしゃるようだし、あと外国籍の方もいらっしゃるようですし、まだ国籍がある子はいいんでしょうけれども、国籍がない子も中には埋もれていますよね、あの地域で。そういう子たちをどうやって拾い上げるか、どうやって新宿で見えていってあげるか。私が住んでいる地域とはちょっと違うので、ちょっとびっくりしながら話を聞きましたけれども。

吉澤座長 あれでしょう、父子とか母子というのはもう随分以前から、差別的に聞こえるからというのでひとり親になったんですよね。それは名称だけで、中身はあまり、中身というか手当てその他というのが差があるんでしょうね。

金澤委員 変わっていない。そうですね。母子家庭の方が多いいんですよね、手当てがね。

事務局 国制度では、母子家庭というくくりで手当てが出ていたりいたしますので、計画の中で多少、母子家庭、父子家庭という言葉を使っております、それが区別する必要がないのではないかというご意見につながっているのかなと思っておりますので、あの辺はもし変えていくのであれば、ちょっと検討をしないといけないところだと思います。

吉澤座長 それは大久保地区だけではなくて、いろんな、新宿区だけではなくて、いろんなところで問題にはなっているようなんですけれども。

何かありますか。どうぞ。

小林委員 私は1箇所しか、榎地区だけ出た。

吉澤座長 詳しくご報告くださったんですね。

小林委員 はい。それでやっぱり一番感じたことは、やっぱり行政側と区民の関係者の方が、やはり話し合うということがすごく必要なのかなと。やはり行政側も区民に求めるところがあるだろうし、それから区民の側も行政に求めるところがあるんですけども、お互いの接点がないものですから、区から提供していることを誤解している場合もあるし、じっくり理解もしていないところもある。

逆に、区民の側からの要望も、要するにうまく伝わってなくて、本当はうまく区側は受け取ればできるはずのことが受け取りきれていないという部分もあるので、結構お互いにずれてしまっているところがあるのではないかと。そのためにはやはり、話し合うということが、すごく必要なというふうには感じます。そのことによって、結構誤解が解けていく部分があるので、やっぱりお互いそれは努力をしていかないとよくないのではないのかなというのを一番感じます。

だから、やっぱり話し合うことによって、結構親の方もちょっと狭い意味のエゴがあったかなとかという意見も出てきたり、気がついたりする部分もあるので、やっぱり話し合う場。だからお互いに区としても協働ということを行っているのであるので、やはり協働するのはやっぱりお互いが理解しないことにはできないので、お互いが誤解しないで理解できる場を持っていくということが必要なというふうには感じました。

吉澤座長 そうすると、そういうチャンスをたくさん作るということですね。

小林委員 そうですね。だから、特に当事者というんですか、そこに関係、例えば子育ての問題だったら子育てに、今、している最中の当事者になります。それと先ほど吉村さんのこれも話があったように、経済的援助の問題が最後のところにちょっと出て、時間がなくて、その部分がもうちょっと議論というか、話し合いできれば、その辺がやっぱり困っていらっしゃるのかなというのは感じました。

吉澤座長 他にいかがですか。こちら側の線が多いですけども。

鈴木委員 私も地域懇談会に2箇所ほど出席させていただいたんですけども、策定委員側として出席するのと、区民として出席するののちょっと違いがあって、私はもしできたら区民の方で出席したかったなと思ったのは、出生率が低下しているということで、それで新宿区が本当にここまで一生懸命がんばってやっているのを、その活動が区民にいていないのかなというのがとてもよく感じるんですね。

それは、専業主婦世代の、専業主婦の方たちですね。何か問題があるからこういう地域懇談会に参加しようというのが、やっぱり保育園に通わしている人だったり、学校に対し

て不信感を持っている人とか、そういう方たちが参加されて、いじめの問題はどこに持っていくのかとか、そういうような話だったんですけども、実際に出生率、新宿区として上げていこうというふうなことを考えたら、どうするのかなと言ったら、私の周りの人たちって結構3人子どもがいる人が多くて、それで4人目、今度生まれるのよとか、それで「新宿H a H a h a 倶楽部」なんかにしても、今産休の人が多という形なので、企業と子育て家庭とか、企業がずっと仕事をしていて、1人なら子どもを産めるけれども、2人目はちょっとまた休まなければいけないから会社にいにくくなるからとか、そういった働く人たちの声というのがやっぱり地域懇談会には出てこなかったなというところが、ちょっと残念なことでした。

あとは18で子どもを生む人もいれば、30過ぎてもまだ結婚していない人がいる。そういう幅広い層がある中で、地域と子育てというように枠ばかりで話をしてしまうと、本当に何か働くママとか専業主婦とか、そういう学校に通わせているお母様たちとかというところの視点ばかりが厚くなってしまって、仕事を持って働いていて1人目産んで終わって、産休明けて、嫌味を言われながら働いていて、2人目なんてとんでもないからと、妊娠したけれどもちょっとやっぱり産休だめだわとか、そういうふうな人たちに、もう1人がんばって産むのってすごく楽しいよ、育てるのは楽しいよというようなことを考えてもらうには、やっぱり企業とか、この中にもあった社会の目を変えていかなければいけないという、子育ては地域全部で育てる、社会が育てる、日本のためなんですよというような視点をもうちょっとどこかでアピールした方が一歩進むのではないかなという気がしました。

地域懇談会に出席したときには、本当、それぞれの子育てがあって、それぞれの事情があって、みんな拾い上げていたら本当に区は大変だなというところが実態で、やっぱり人数が多い層に今度厚くしていくというのだったら、やっぱりこの専業主婦をやっている人たちの声というのも、どうにかして集めなければいけないという気もするんですけども、実際、こういう会に来るかというのと、やっぱり自分のことが精一杯だから来られる余裕がないという人たちの声をどこかで集めなければいけないかなと思います。

吉澤座長 でも、実際に活動をしていらして、今、懇談会のお話でしたけれども、いかがですか、その辺は。どうしたらいいですか。

鈴木委員 そうですね。やっぱり、「H a H a h a 倶楽部」のメンバーにも一応声は掛けるんですけども、やっぱりちょっと忙しいとか、赤ちゃん、ベビーカーで押して雨だったりすると行かれないとか、そういうふうなところがありまして、そもそもは何か行政にし

てもらおうという気がないんですよね。夫の給料でやっていて、それでベビーシッターも電話帳をめくればいいベビーシッターがたくさんあるので、ベビーシッターのところに頼むとか、区でとか行政だとか、何とかそういう気持ちがほとんどないような気がします。

幼稚園は選べるので、こういう幼稚園があるよと言えば、その園長先生の方針とか一生懸命考えて、自分で選んで行かせるし、習い事なんかも、もう本当いろんなところから資料を集めて選んで行く。ですから、支援があったらいいことはあるのかなというのと、やっぱりファミリーサポートはちょっと何かのときに利用したいなというのもあるんですけども、それ以外の児童館にしても、あまり行くような感じではない人たちもいます。

でもやっぱり、その人たちはそれで幸せなんですね。自分の子どもはお金をかけて手間ひまかけて一生懸命育ててというところで、その人たちにまで手を広げる必要もないかなという気もするんですが、ちょっと偏っているかもしれない。

吉澤座長 あとでまた問題もありそうな気もしますが、そういうことはないですか。

松永さん、どうですか、その辺を考えて。懇談会の問題も含めて、今の話。

松永委員 今とても頭の中が、私本当に正直言って混乱していて、これまでずっと懇談会に参加させていただき、好き勝手なことをしゃべらせていただいていたんですけども、でも、実際懇談会に出てご意見をいただいて、やはり今鈴木さんや小林さんがおっしゃったことも、金澤さん、合澤さん、皆さんおっしゃっていることが本当、身にしみるといふか。

子どもの権利条約のご提案があったんですけども、私はちょっとこここのところ思っていて、その権利条約、子どもの権利条約というものがそもそもこの計画の本当の根本にきつとあったと思うんですよね。そこから、日本の出生率の問題等々が出てきて、この間の1.29ショックもございましたので、本当にそれで1.29イコール年金問題という扱い方をマスコミはしていましたけれども、文化の問題。

文化、私としては、年金問題はもちろん死活問題なので、とても大事なことなんですけれども、やはり日本がこの先どうやって国としてやっていくかという文化の問題が一番大きいのではないのかなと。文化ですね。日本としての文化を守っていく、日本が空洞化しないためというんですか、そういうためのやっぱり文化の視点を持って、この問題をとらえていかなくはいけないんだなという。やっぱり今鈴木さんがおっしゃったように、自分の目で確かめて、自分で情報を集めて取捨選択をし、そういうスタイルが今の世の中は可能です。可能な世の中になっていますけれども、やはり日本の中で子育てをしていく、新宿の中で子育てをしていくというときに、やはりそこに住んでいるんだという誇りとい

う、そういうものが、本当に世界中の情報が集められる毎日の中で、やはりその場所に住んでいるのだという自覚、何て言うんですか、そういうものを持てるような意識を、育てる人にも育つ人にも持っていつてもらえるような、要するに皆さんが今おっしゃっていたように、この計画の本当に策定そのものが、そういう意識の高揚につながるようなものであれば本当はいいのかなと。今まで権利条約に常に、今例にとって権利条約を例にとってみているいろいろな策定がありますよね。施策、いろんな施策があったり、行政のサービス。そういうものが常に立ち返れる原点という、ではこういう施策が提案されたけれども、ではこれはその次世代向上計画、もしくは子どもの権利条約に照らしてみても、いいのか悪いのかということはないんですけれども、優先順位が高いねとか、そういうすごくこれは理にかなっているねとか、そういう規範というんですか、ごめんなさい、言葉が足りなくてあれなんですけれども、という判断基準になるようなものであればいいのかなと。やっぱりこれだけ回っていると各サービス、こういうサービスをしてほしいとか、子どものためにこうしてほしいとかということがあると、本当にたくさん、皆いろいろなアイデアが出てくる。アイデアの泉みたいに出てくる。

結局、だからそれを、その計画そのものを取り入れていってしまうと、きっとまとまりがなくなる。だから、この方向性、こういう方向性で区は考えているという規範作りみたいなものでいいのかなと、私は最近ちょっと、そういう支援計画を理解する上で、この計画を理解する上で、やはりこれはあくまでもその行動の目標、あくまでも目標であって、その目標で各そういう施策が、この計画という目標に照らし合わされたときに、「あ、いいね」という、理解できる規範になればいいのかなというふうに思います。

吉澤座長 理想的ですね。

松永委員 そう思ってきて、そうなるとだんだんもっと何か頭の中が混乱してしまって、今本当にちょっと自分の中で消化しきれなくなっている時期かなと思っているんですけれども、でも本当、こうやって今日皆様の話を聞いて、そう思います。

吉澤座長 そのお話の中で言うと、それは言い過ぎかどうかわからないけれども、子育てってひとつの生活文化ですよね。そういう意味で使っていらっしゃるんですね。

松永委員 そうですね。

吉澤座長 そうですか。

松永委員 そういうものになったらいいな。

吉澤座長 そうすると、住民の意識がそういう方向に向いていったら、ちょうど行政と住民

との行動の協働もできるのではないかというぐらいにお考えになって。

松永委員 はい。それが、本当はただの絵空事なのかもしれないんですけども、そういったコミュニティができ上がったら本当はいいんだろうな。そうすると、区民と本当に手をつなぎやすいと思うんですけども、それが……

吉澤座長 そういう土壤かな。そういう土壤が出ていると。

松永委員 土壤が、そうそう。

吉澤座長 土壤を耕して。

松永委員 耕していきたい。大変なんですけれども。でも、そのためには本当1つ1つの施策が肥やしになるのかもしれないし、芽になるのかもしれないなというふうに今は考えています。もしかしたらそれに気づくのが遅かったのかもしれない。もっと早くそれを、おっしゃっていることが最初からそうだったのかもわからないですけども、間違っているのかどうかちょっと自分でも判断できないんですけども、そういうふうな新宿になったらいいな。

吉澤座長 新宿がそういう方向に。

松永委員 新宿がそういうふうになったらいいんですけどもね。

吉澤座長 なるほどね。今のお考えに対してどうですか。実際の話し合いの中でなかなか…

松永委員 具体性がないですよ。

金澤委員 地域懇談会がありましたよね。そのときにちょっと呼びかけたんですよ、私、こういうのがあるからと。そしたら「え、子育て？ 私たちはもう子育て終わったから」と言う人がいたのね。そうではないでしょう。自分の子育ては終わったかもしれないけれども、この地域の子どもたちの子育てはみんなやらなければいけないからということで参加してもらった方がいるんですよ。

その方に資料を区の方から渡したら、それを見て、「え、こんなにやってくれていたのね。知らなかったわ」。この策定委員会があることすらも知らなかった。そういうのでちょっと1回やって呼びかけたために、それからだんだん少しずつ輪が広がっていているんですよ。だから、来なかったお母さんたちにも、あなたの子育ては終わりかもしれない。でも隣の子どもさんを見る。自分が育て、見る子育て、見ていく子育て。それとあと、自分の子どもの同級生の子どもたちの見守る子育て。いろんなものがあるのだから、私たち関係ないわじゃないのよという声がだんだん、この地域懇談会に出てくれたおかげ

で広がります。少しずつ広がっています。

だから、漠然としているかもしれないけれども、でもそれでだんだん土壌が固まっていくし、広がっていくし、だと思えます。

松永委員 それは本当に、せっかくこれだけ……

金澤委員 私たちの中ですよ。

松永委員 みんなでせっかくこうやって集まったから、私たちがその気持ちを少しずつ、もしかしたら今ではなくて、それが実るのは100年先かもしれないけれども、そういう気持ちでいたいというのは、この懇談会を通してとても感じました。繰り返しになるけれども、

合澤委員 そういう方っていらっしゃるんですよ。社教の中、どんどん引き続き講習を受けたりして、私の仲間にもいますけれども、そういう人たちはもう言わなくても、これに関係なく自分の意思でそういう講習を受けて、持っている人が何人もいますよ。

だから、その人たちが一応徐々に増えていけば自然の中で、それとこれちょっと本当例外だと思えるんですけども、たまたま私が知っている人が、今度3人目、若いお母さんですけれども、全然こんな苦にしていないんですよ。うちは共働きでお父さんとやっているだけども、もう3人目が生まれるのが楽しくてしょうがないと、だからみんながある程度、こんな区からの経済的なそういうものも必要だけれども、まず自分自身がもう2人で何とか、だから育てるというので、そのお母さんが前と後ろに自転車に乗せて、何かやっぱりこういう姿も大事だなと思って、それは放っておくわけではないんですけども、ご本人が私はやっぱりこういうものがなければ育てられないとか、何かそういうことから始まると、何をしても、だから「わー、たくましいな」と思って、本当自然でおっしゃるんですね。

だから、ああ、そうか、こういうのも少しは精神的に学んでいかなければいけないのかなと思って、そういう方は本当、少ないと思います。もう2人目はどうしようと、児童館に行ったときなんかもおっしゃっていましたが、2人目は働くので、できたらというような感じでまだ悩んでいらっしゃる状況が多いんですよ。

小林委員 そういう要するにたくましいお母さんがいっぱいいれば多分、こういうことは言わないだろうと思いますけれども、ちょっと午前中に榎児童館のぴよぴよクラブとか、何か0歳児のちょうどサロンのところにちょっと用事があったてやっていたものですから、10か月前後のお子さんを連れてお母さんが10人ぐらいいまして、ちょっと輪に入って、「何か月？」みたいにいろいろ話を聞いて、誰も全然知らなかったんですけども、ただそこ

ですごく私は、今のお母さんってこんなに不安を持っているのかと思ったことの1つには、「公園に行ってお友達なんか作るの?」と言ったら「え、公園では友達は作りません」というんです。そうしたら、こういう管理されたところに来ている人とお友達になるのはいいけれども、不特定多数の人が集まる公園で友達にはなれませんという。それはちょっとその館長さんもちらっとそんなことを前におっしゃっていたんですけれども、ちょっと話を聞いてみたら本当にそうなんです。

たまたまそこいた10人の方だけがそういう考えなのかもしれないんですけれども、現実にはそういう方がいらっしゃるというのを、やっぱり直接話を聞いて、そうすると若い方というのは、要するに子どもは生んだとしても、その先すごく不安、不安、不安で子どもを育てているんだなと。多分、その方たちは專業かもしれないし、仕事を一時休んでいるかもしれないけれども、大体10か月、聞いたら10か月、11か月のお子さんを持っている方ばかりだったんです。皆さんそこでは仲良くやって、そしてその後ベビー体操みたいのをして別れていったんですけれども、そこで、こういう管理された空間でしか友達を作ることができませんというのを聞いて、すごい不安を持って、世の中に対する不安だらけなんだなというのをちょっと実感したものですから、今合澤さんからたくましくと言われたんですけれども、逆にそういう人がいる、親がいるということにちょっとびっくりということと……

吉澤座長 今おっしゃったように、いろんな問題があるでしょう。それ、そっちの不安ですよ。だから、子どもを公園に、小さいと出せないんですという問題がたくさんありますね。小林委員 だから親も他人に対する不信感しか持っていない。ちょっと離れてしまう話なんですけれども、現実のそういうのが今日、午前中にそういう話を聞いて、かなりショックだったので。

松永委員 どんどん人間のコミュニケーションスキルが奪われてしまうんですね、場所もスキルも。そういうスキルを奪われて育っていった中学生や高校生が、そういう能力がないまま、また大人になって、子どもを育てようと思ったら、きっと閉じこもってしまうかなと。だから、この間の榎で何も束縛されなければ、そういう場所を利用したいという中学生の話がありましたけれども、やっぱり人と接する機会って、私もこうやって皆さんとお目にかかれたこととお話を伺ったりしゃべったりすることで、とても自分自身、ためになっているということもあるので、そういう幼稚園のお母さんたちは、みんなそうなんだけれども、やっぱりそういうコミュニケーションスキルがあれば、それなりにもっと教育

の問題でもあり、子育ての問題でもありなのかなと。そういう場をたくさん作って行って、たくさんといっても必要に応じていいんだと思うんですけども、自由に子どもが出て行って、自分たちが意見を言える。何か、昔から意見とか言うと、学校でしらけるとかと言われて、みんな本当は正しいことを、いろんなこと意見を言いたいのに、斜めから見て俺は関係ないよとか、私はそんなにキャーキャーと見ていれば安心というのが、今小林さんのそのお話を聞いて、本当は1人1人みんな持っているものなのに、それを出せない社会になってしまって、そのままそういうコミュニケーションがとれないまま、みんないってしまっているから、いろんなことが起きるのだろうなと。

この間、知り合いのお母さん、現在マンションに住んでいるんです。マンションといっても結構大きな集合住宅、マンションに住んでいるんだけど、お隣にもお年寄りがいったり、上にもちょっと子育てをひと段落されたご家庭、おじちゃまとおばちゃまぐらいの年代の方がいらっしゃるけれども、全然やっぱりあいさつ、会釈が、こっちとしては子どもがいたら、せめてニコッとぐらい微笑んでもらえたらうれしいとか、こっちもごあいさつをなささいね、同じマンションの方だからごあいさつなささいねと教えているんだけど、やっぱりニコッともしてもらえないと子どもも辛いよねなんて話を聞いて、そんな小さなことの積み重ねなんだろうなと最近つくづく思っています。

小林さんも、今、私と同世代のお子さん.....小林さん、ごめんなさい。日高さんとか、大体同世代ですね。ちょっと小さいね。うちよりちょっと小さいですけども。お子さんがいろいろ、子育て最中でいらっしゃるので。

吉澤座長 何かおありになります、日高さん。何か。ご希望が、ご希望というかご感想でも。
日高委員 私はまだ懇談会に参加していないので、その点はわかりませんが、さっき合澤委員が言われたたくましいお母さんというのは、実際にやっぱりいらっしゃるんですよ、幼稚園でも小学校でも。少数ではあっても3人とか、小学校で5人いらっしゃるお母さんとかいて、やっぱりそう言ってしまったら、この会のあれがないかと思うんですけども、まずは家庭なのかなという気がするんですよ。家庭の中で、大変だ、大変だと言われる育児をどれだけ家族で協力して、一番最初に挙げられるのは夫だと思うんですけども、協力してやれるかということで、かなり大変な育児の感じ方が母親にとって変わるのではないかという。

私はこの二、三年、鬱々としていたというのは、何か個人的なことを言うのはとても恥ずかしいんですが、主人が全くもうノータッチというのが、今思えば一番自分はそれが辛か

ったのではないかという気が、私個人はするんですね。何かその家族が、まず第一には家族が一番どれだけ理解してみんなでというか、共同で子育てをやっていくという環境を作るのがやっぱりまず一番で、でもそれにどうしてもできない、そういう状況にない人ももちろんいらっしゃるから、そういう方々をサポートするというのは、やはり社会として大事なことだと思うんですけども、でも本当にサポートされることばかりを待っていては、本当にダメだなと。やっぱり自分でそれなりの努力をすることも必要だし、その努力を探せば、何か光が見えてくるところもあると思うので、そういう部分もやっぱり必要だなとは今思います。

吉澤座長 おっしゃることを違う言い方をすると、意識啓発とかという内容なんですかね。さっきの話との関連でいくと、親としての意識という問題ですね。

日高委員 そうですね。いろんな状況があると思うけれども、やっぱり自分、もちろん自分が大変だと思って、実際大変かもしれないけれども、その大変なことのストレスを一番何も無防備な子どもに与えてしまうのが最悪な状態なんだから、それだけはやっぱりどうか、そこに至らないように、まずは個人、母親としてやるべきだと思いますけれども、それができない場合に、やっぱり周りがケアするというか、それに対処できるような状態があるといいなとは思いますが。

吉澤座長 ちょっと今お話したような、今日紅一点ではないですが。

渡邊委員 私も懇談会の方に参加させていただいて、自分のスケジュールの調整能力のなさを痛感しているんですけども。

吉澤座長 それはあまり気になさらないで、今のお話の中で。

渡邊委員 外国人の方々の対応とか、それからハイリスクというか、孤立しがちになっているというところの項目にやっぱり興味がいったんですけども、私の住んでいるところの若松町も、やはり東京韓国学校というのがあって、そこが多分定員がいっぱいだと思うので、入れないお子さんが大分いらっしゃるようなんですけども、それでも私はやっぱり個人的に子どももいなかったもので、そんなに關心を持っていなかったし、実際、どのような形で親御さんが新宿区の、この学校の方に子どもを入れる手続をされているのか。うちに来るお客さんなんか、韓国の方なんかでも、しゃべれる方とほとんどしゃべれない方がいらっしゃるんですけども、そういったところの少数な方というのか、少数という言い方がいいかどうかかわからないですけども、方へのやはり対応の部分も、もうちょっとウエイトを持たせたらいいのかなというのと、それからやはり汐見先生も盛んにおしゃっ

ていたように、虐待、子育てが楽しくないというお母様たち、お父さんもそうですけれども、親御さんたちですね、その部分で、そこに至らせたらいけないわけですね。その部分の視点をやはりもうちょっと注入していく。この支援計画というのが、新宿区で子育てをする方全般に情報を提供できるものを目的としているわけですね。

ただ、やはりそこにある少数の方の子育ての、何て言うのか、子育てに対する安心感を十分に与えられるようにしていくためには、もうちょっとそちらの方の視点を落としているけれどもいいのかなというふうに、今まで長年ありますから、もちろんそれを踏まえてこういう形になっているのしょうけれども、その辺がもう一度、この今回のいただいた中でもこのハイリスクのというところが大分ページ的にも、今までの流れの中でというふうに書かれていますから、もうちょっと視点を注いでもいいのかなというふうにはちょっとと思いますね。

吉澤座長 そこがちょっと弱いのではないかと。その視点が弱い。

渡邊委員 ちょっと弱いのではないかという気がしますね。

それから、あと先ほどの地域の団体というところなんですけれども、私はちょっと普通の地域の教育団体とは違うんですけれども、青年会議所というところに属していて、いろんな事業をやっているんですけれども、子どもたちに対する事業の中で一番視点を置いているのは、当然のことなんですけれども、誰が主役で、誰にとってメリットのあるものを作るのかというところが、多分何か欠けてしまっているのかなというのは感じます。

というのは、私たちも、私たち単独ではいろんな事業はできないので、いろんなところにお声掛けをしようとするんですけれども、どうしてもそこに大人のエゴが絡んできてしまって、実際、ちょっと違うのではないですかというようなところが大分あるんですね。僕たちはやはり、そのところ、誰が主役で誰のために、結果、誰がどういうふうになってもらいたいのかというところを一番念入りに議論して、その結果事業をやっているの、やっぱり地域の大人たちが集まって勉強するというのであれば、もう少し大人のエゴというか、そういう部分を取り除いていただいて事業を、連携やってもらいたいなというふうにはすごく感じています。

吉澤座長 青年会議所なんかでそういう話が出たときの議論なんていうのを、一端をご紹介しますか。

渡邊委員 今、一番身近だとわんぱく相撲というものなんですけれども、多分、これは皆さんご存じなのではないかと思うんですけれども。

吉澤座長 方々でやっていますよね。

渡邊委員 ええ、もう全国展開しているものなので、年数も大分やっているの、そういう意味では私たちの中でも形骸化してしまっている部分は多少あるんですけども、毎回当然テーマを持って、ではこの年は子どもたちに最低これだけは意識として持ってもらえるような運動をしよう。例えば「ありがとう」をテーマにしたなら、その大会全体が「ありがとう」という言葉を発しやすい雰囲気を作ってあげるとか、そういう部分から議論をして、同じ「ありがとう」「ありがとう」ということでも、人によって取り方が違うんですよ。相撲をとって来て「ありがとう」なのか、負けても「ありがとう」なのか、そういう部分を綿密に話をした上で当日の大会に向かっていく。

あともう1つにはやはり、私はまだ人の親ではないですけども、当然、親のメンバーもいますから、視点で欠けているのは、やっぱり親をどうやって教育していこうかという部分が結構議論に出てきますね。子どもたちも呼んで、親御さんも当然、来てくれる。でも子どもたちだけが「ありがとう」というのを身につけて帰るのではなくて、親御さんも一緒にその大会に来てくれて「ありがとう」と言って、家庭に帰ってまたその話ができるような大会にしようというのがやっぱり一番目的になってくるので、そういう主役が誰で、どういう波及をしていくのが一番効果的なものということをきちっと連携するいろんな地域の方々に持ってもらえたらなと。偉そうなことは言えないんですけども、私は個人的にそう思っています。

吉澤座長 そうすると、企業の方々もお集まりですよ。

渡邊委員 一応、企業……まあ、ええ。

吉澤座長 ただそういうお立場から地域にどうやって働きかければいいですかね。

渡邊委員 青年会議所って、青年経済という名前なんですけれども、基本的には企業経営者ではあるけれども、特に私たちの委員会は地区の委員会なので、地域のいわゆるボランティアの皆さんと意識的にはそんなに変わらないんですね。企業として何かをしようということではなくて、企業の中の代表者が集まって、地域のために何かをとというような形なものですから、企業を背負って、その企業として何かバックアップというのではちょっとないんですね。それは商工会議所さんと違うところなんですけれども。

松永委員 今の渡邊さんのお話の主眼、主役、テーマ、私何か絞り込んでいけないといけないうのが、今回この中間報告で、これからこの意見を要するにどう反映させていくかということが今、一番考えなければいけないんですけども、ではそれをどう反映させ

ていくか、今論点とかを全部まとめていただいたので、本当にこの中から1つ1つテーマを絞り込むのか、もしくは次世代、新宿区の次世代として、まずこれをやろうというのをみんなで決めて、それに取り組むのが先なのか、優先順序なんですけれども、そういった方向にしていけないと時間が足りないのかなと最近思うようになりました。

吉澤座長 その辺を選択して実際にやっていく段取りは、行政も関わらないとならないでしょう。行政も協働でやらなければならない。関わらなければならない。そうすると施策の中での重点施策というのはおありですよ。それはこちらから後で検討をしていただけるということになりますかね。いろいろ、ご意見が出た。

事務局 ご意見が出たものについて、例えば具体的な提案、こういうことができるのではないかというものが出たものについては、この中で庁内の本部会議に上げてほしいというものを整理していただいて、庁内の本部会議に検討課題として出していこうというふうに考えています。

だから、それができるだけ実現の方向でということですが、すべてできるとは限らないということはあるんですけども、目先のことを考えればダメだけれども、将来的にはそれはすごいことだからそれに向かってというふうな方向付けをすることも可能なのかなと思っていますから、あまり実現可能性ばかりを考えないで提案いただいていいのかなと思っています。

吉澤座長 というけれども、やっぱり具体的にはもう少し、具体的な事実がほしいということなんだろうと思いますけれどもね。

松永委員 周りから聞くと本当に具体的に、具体的なやはり、どうしてもこうしたい、ああしたい、今の渡邊さんのお話ではないですけども、例えば子どもの運動会で、子どもが演技をしているときにおしゃべりしていないで拍手してやってという、私そういう気分なんですけれども、本当に親をどう育てるかって、耳が痛くもあるお言葉であります。

吉澤座長 子育てでなくて親育て。

松永委員 授業参観で「はい、静かにしましょう」と言うと、子どもが静かにしているのに親がいつまでもしゃべっているとか、ああいうのは耐えられないんですよ、私はどちらかと言うと。すごくそういうのを、今渡邊さんからお話をうかがって、身にしみて、今感じています。

吉澤座長 身近なところでお互いに意識を高めていくような働きかけの具体的な行動をするということですね。

どうぞ。

合澤委員 お話、すみません。さっきのお話で、やっぱりお母様たちが気軽に悩んだりするときに、例えば具体的に子どもが病気になってどうしても休めないから預けたい、そういうところって今、東京にはなかなかないですね。私もちょっと気になって、ちょっと何人か聞いてみたら、お友達に預けるといいうんですよね。だから、多分学校のPTAか何かで親しくなったお母さんだろうと思うんですね。そういうお母さんたちとそういうこと、自分も預かるしというような、やっぱりそういうことも大事に、無理に大きな組織に入るとい必要はないから、根本的にはそういう状況の中で。

それともう1つは、そういうのを作ってあげるように。というのは、形としてはやっぱり児童館とか、一番来やすいというのはやっぱり児童館だとか近くに、本当は町会に入っていられれば一番いいんだけど、ほとんど入っていないんですね。ただ、義務的に連絡が来たのをパッと受けっ放して、こちらからは何もという方が割合多いので、そういう場を大事にしながらやっていらして、そして自然とそのいろんな組織の中に入っていられればいいかなと思う。

まず、お友達というのは若いお母様方は、お友達が一番多かったですね。やっぱりお母様たちが遠いから間に合わないので、そういう友達が私にはいますのでとおっしゃっていたから、自然とそういう本能的にそういう環境を作られるんですね、やっぱり小さいお子さんを育てられて。だから、私はそれはそれでいいと思うんですよね。

ただ、それともう1つ、子ども人権と言ったのは、ここに大部分基本的にうたってありますので、やっぱり虐待という問題が多いんですよ。結局、要するに本当の実子であって、やはりストレスがたまって、そういう方はやっぱり年に、ちょっと書いたのを、データがないんですが、千二、三百件あるんです。内容はすごく、これはもうすぐに親と話さなくてはとかいろいろありますけれども、でも内容のほとんどはやっぱりそのお母様のストレスがという部分があるので、やっぱりこれだけのいろんなものを支援していただくのであれば、やっぱり親として最低、やっぱり自分の子どもは感情でというようなことをしないで、きちっとそれを心の中に、どこかに入れておいてほしいなと。そういう意味でも、この子ども条約というのは何も難しいことを書かなくていいですから、あるんですよ、略したのが。そういうものをやっぱりちょっと載せた方が、やっぱりお母様が冷静になったときにいいかなと思ったんですが。

吉澤座長 今のそれは、この中間報告の……

合澤委員 報告ではなくて、このもとに戻りまして、いろんな人が来ていましたけれどもね。本当は隣同士が一番いいんですけども、ちょっとそれは無理みたいなんです。それで、今の隣同士というのは、若い方というのは、お友達の中から、それも学校の仲間が多いという実情があるみたいです。だから、それで救われていらっしゃるんだったら、それでいいのではないのかな。

それと、やっぱり親としてストレスがたまるからということで虐待とかになった場合は、やっぱり親の自分の責任ですから、そういうところではきちっと自分をわきまえた上で、というの、そういう意味でこの、それだけではないんですけども、子どもの権利条約というのがきちっと出ていると思うんですよね。

吉澤座長 合澤さんがさっきからおっしゃっているのは、この本文というか、本文の中にそれだけのことをきちっと入れてほしいという。入れていただくことが必要だというご意見ですね。

合澤委員 はい。

吉澤座長 権利条約なんて入れなくても、それをきちっと。

合澤委員 条文みたいに書いておけば。

吉澤座長 何か、そういうことと関連しておっしゃることはありますか。

どうぞ。

鈴木委員 不安というのが先ほど小林委員からありまして、やっぱりすごく不安だと思うんです。妊娠中も不安だし、子どもを作ろうかというときに、何か子どもの事件があって、また、では私はちょっと無理かもとかいうのがあるので、本当に子育て、大きな事件があるとマイナスの面ばかり新聞紙上とかでアピールされてしまうので、そうではなくて、もう新宿区の広報とかそういうところで、こんなに子育てというのは楽しいよというのを、もう1か月に1回ぐらい定期的に流すとか、子どもがいてこんなに私の世界が広がりましたとか、そういう何か情報操作ではないですけども、目につく事件、事件が全部不安につながってしまって、公園に行くと何か鳩のフンがあると行かないとか、それが砂場には何か汚い何とか菌がいるとか、そういうのを、何かそればかりが頭に入ってしまって不安になる。

それをちょっと払拭させてあげるというので、ここの子育てネットではないんですけども、とてもいいことがたくさんあるのだよ、こんなに自分も成長したし、周りの人もこんなに関わりが持てたとかいうのを広報とか、そういう何かのホームページでも何でもい

いんですけれども、積極的に流すというようなことを役所の仕事の1つとして加えるとい
いのかなと。新宿の子育てというのでこういうのをやっていますという、字ばかりでこう
いうのではなくて、何か見て楽しくて、いいこともたくさんある。

吉澤座長 具体的な、みんなが豊かになるような事例なんかを評価するということですかね。

鈴木委員 そうですね。ただ、児童館の子育てサークルとか1行ではなくて、本当に写真が
付いていたり、いろいろ、これだったら私も行けるかな、週に何回と決まっていなくて、
行けるときだけ来てくださいみたいな一文があると私も行けるかなというような、参加し
やすいような形にその区の何か行事なり何なりを、そのわんぱく相撲もうちのこの人た
ちにPRできて、お相撲って何と、全然一度も行ったことのない人にとってはわからない
ですよ、行っていいものかどうなのかというところが。だから、そういうところでちょ
っとPRの仕方を、参加しやすく、全く知らない人が読んだときに、行こうかなという気
になってくれるような形でPRするというのが、まずできることかなという気がするん
ですけれども。

吉澤座長 そうすると、PR、情報提供の仕方をもっと工夫しましょうということですか。

鈴木委員 そうですね。

吉澤座長 いろんな方法があるかもしれませんがね。

どうぞ。

小林委員 今日の資料というか、中に、新宿区子育て仲間づくりサポート養成講座というの
が入っていると思うんですけれども、ちょっと今日の委員会から外れてしまうのかもしれ
ませんが、これは一応榎町の児童センターの館長さんと私が中心になってやること
になりまして、最終的には各児童館、新宿区は確か22あると思うんですけれども、その
子育て支援、サロン活動をサポートしている人たちをネットワーク化して、すべて関わっ
ていこうということを計画しております、一応、サポートする人たちに多少、どんなふ
うにサポートしていくかということを多少勉強していただいて、その中でその人たちを全
部グループ化いたしまして、月に1度とか2度、あるいは週に1回、お互いにケースを持
ち合って話し合いながらサポートしていくということをネットワーク化しようとしており
まして、なるべく具体的にきめ細かくやっといこうと思っておりますので、皆さん、ぜひ
その辺をご協力を、ちょっと話がそれてしまいますけれども、この素案の中の、より具体
的で私ができることかなと思ってやるつもりでありますので、皆さん、いろいろ情報があ
りましたら、情報もほしいと思いますし、ご協力もお願いしたいと思ひまして、ちょっと

外れましたけれども、このついでにお願いいたします。

吉澤座長 情報の提供の仕方の1つで、皆さんのご協力をいただければ。

小林委員 お願いいたします。

合澤委員 そうような作業において、ご相談とかいろいろ何かのあれになるかもしれませんよね。

小林委員 そうですね。なるべく児童館が拠点になればなと思ってしますので、よろしくお
願いいたします。

吉澤座長 という、PRがありました。

小林委員 ちょっとPRしてすみません。

吉澤座長 他にどうぞございましょうかね。

そして、さっき言いました、この協議会の結果に盛り込むべき、あるいは強調すべき点がお
ありになったら、まだ懇談会の中間、中途ですから決定ではないですけども、今までの
ところでこういうのどうだろうかというご意見を頂戴した方がいいかなと思いますけれ
ども、いかがですか。

小林委員 これは提案なんですけれども、このものの内容自体ということではなくて、この
素案自体に対してやっぱりもうちょっと勉強したいとか、もうちょっと積極的に考えたい
という方がやっぱりいらっしゃるようなので、やっぱり、もっと積極的に考えたいという
人たちの勉強会みたいのを提案できたらなと思って、もしそういうのがいいのであれば、
場所とか人をみんなに呼びかけて、より関心のある人に集まっていいただいて考えていく、
勉強する。私なんか、私も含めて私もすごくまだよく理解をしていないところがあるので、
そういう会をもしできるのだったら提案したいなというふうに思っています。

吉澤座長 こういうのね。

小林委員 ええ。もしできれば汐見先生とか、先生も出てくださって、アドバイスの、こ
ういう考えはどうというふうに私たちも勉強しながら考えていくという会ができればいい
なというふうに思っているんで、地域懇談会以外でということ。

結構、この間榎町でやった後で、何かそんなような勉強会をしたいなという話をちらっと
聞いたりしたものですから。

吉澤座長 参加者から。

小林委員 ええ、参加者の方からちょっと聞いたものですから、そういう会を、その人たち
の意見がすべてということではないんですけども、もしそういうことをすれば、例えば

私もあの人とあの人と、もし出ていない人に声を掛けて来てもらうというふうな形で、ここを提案できたらなと思っているんですけども。

松永委員 それは要するに指摘で……

小林委員 指摘というか、やっぱり興味を持っている方も結構いらっしゃるんで、その辺で話し合ってみると。先ほど金澤さんからもおっしゃったように、関係ないわと言ったけれども、話しかけて来てみたら、という人もあると思うので、地域懇談会をやることによって少しずつ関心を持ってきているのだったら、その関心を一挙にもっと広げるというふうな方向で。だから素案自体が具体化するというよりも、関心を持つことによって、さっき金澤さんがおっしゃったように地域で、関係ないと思ったけれども私もそういうやり方があるわねというふうな関心の持たせ方もあるのかなというので、そういう会も持てたらいいかなというふうに思っているんですけども。

吉澤座長 1つのご提案とご意見と、そういう中で、素案をいかに普及……素案ではなくなるんですけども、普及しながら、さっきお話がございましたね。自主的な皆さんが子育てに関わるような、棚から牡丹餅みたいなものを待っているのではなくて、そういうことでもっと積極的な土壌作りをしたらどうかというようなご意見ですね。

小林委員 はい、そういうことです。

松永委員 中間意見、これでこの策定作業の本当に山場というか、ひとつの山場に今来ている段階なので、私たちも策定委員も、ここでまたしゃべりたいことをしゃべって次のステップに向かうきっかけ作りと考えていいんですかね。

吉澤座長 今のお話は策定委員会の自主的な行動としてというぐらいのことですか。

小林委員 そうですね。

吉澤座長 そうしたらまたあれはぜひ検討していただく。また我々だけではあれでしょうしね。お考えもあるでしょうから、行政との関わりも考えなければいけないしね。自主的には全然、我々だけでとか、あるいは地域の人たちでということであれば、また1つの展開の仕方もしれないですね。

小林委員 自主的な形というふうなのではどうかなと思うんですけども。

吉澤座長 誰でも参加していきたいので。

鈴木委員 実際のところ、子育て中のお母さんは忙しいんですよね。それで、時間帯とかいろいろあると思いますけれども、ベビースイミングに行っている、児童館に行っている。そういう中で、やはり学校のお母さんもすごい忙しいですね。それを前提に勉強をして、

もう1回それについて子育てを考えようというのが、やっぱり世代的にも偏りが出てしま
うかもしれないかなというところが、本当に話を聞きたい人は何をしても来ないという
ところが一番問題なのではないかなと思う。やはり地域懇談会もあれだけの回数をやってく
ださっていますし、それに加えて、その策定委員独自の、もちろん話し合う会はとても必
要だと思うし、勉強会も必要だと思うんですけども、どのところにターゲットを当てる
かで、またちょっと会の質自体も変わってきて、本当の勉強会で子育てを終わっている人
たちが、私が役に立つのならとかそういうような話を持つのか、本当に交流という場で赤
ちゃんを連れて来られるようにという会なのかというのがはっきりしないと、またちょ
っと参加する人数も、迷っている人たちが何なのというところもありますし、では子育て
の人たちもという交流を持ちたいというのであれば、やっぱりこの間のシンポジウムにい
ろいろ、手話通訳を付けたり、託児所を付けましたというようないろんなことをしないと、
なかなか一步出てくるというのは難しいのかな。会ばかり何回もあるけれども、参加者
が限られてしまったり、集まらなかったりというような不安はあるのではないかと思うん
ですけれども。

小林委員 ただ、地域懇談会もやってシンポジウムもやって、例えばシンポジウムをやると
きは知らなかったけれども、そういうものがあるのかなということを、先ほど金澤委員が
おっしゃったように、あるということを知って初めて、例えば地域懇談会に出て初めて、
ああ、こういうものがあるのかなということで、やはりなるべく多くの新宿区の方たちが
これを見るということが必要だと思うんですね。

だから、そういう意味では、やっぱり話し合いたいとか、考えたいという人がいるので
あれば、それがどこにターゲットと言っても、その人たちが区民の委議総代ではないこと
は確かです。みんな個人の意見で参加しているわけですから。

ただ、でもその人は新宿区民には違いないわけですから、だから来られる人、だから、
肝心の人は来られないのよというわけでは、だからしないのではなくて、より多くの人、
関心を1人でも多くの人に持ってもらうということというのは、やはり今まで情報が伝わ
らないんだったら、いかに情報を伝えるかということで、やっぱり関心を呼び起こすとい
う努力というのは必要ではないかなと思うので、どこにターゲットを絞るか。ターゲット
を絞らなければいけないではなくて、例えばここでこう来て、例えばでは日曜日の午後だ
と、午前中だったらより多く参加できるかなというふうな、例えば予想を立てて、誰でも
いい、来られる人はということで私が声を掛けて勉強会をしますよ、で私はいいいと思うんで

す。だから、これだけやったから十分とはおっしゃっていないんだけど、でも回数が増えて、機会が増えれば、それだけ関心を持つ人が1人でも増えるのであれば、私はそれでいいと。ただそこに強引に皆さん、委員の方出てくださいではなくて、委員の方も出られる人は出ればいいし、都合のつく方が出ればいいというふうなレベルでいいのではないかなと思って、私はいるんです。

ですから、そういう意味で関心を持っている人はより一層関心を持っていただいて、いなかったら声を掛けて来てもらうみたいな形ということで私は申し上げたので、全員区民の人に全員に行き渡るとするのは、それは不可能な話だと思うので。

吉澤座長 だから、もう少し検討課題にして、できれば。でも気の抜けた時期にやってもしよがないですよ。

小林委員 そうですね。

吉澤座長 その辺を改めて検討していくということで。

小林委員 ちょっと検討してできればなと思っての提案です。

松永委員 もしあれだったら策定委員会として、なかなかまとまった意見を、10人のまとまった意見を区の方たちに上げていないかなという反省もあるので、策定委員10人の意見を何かのときに1つのかたまりとしてご提案させていただきたいかなというのも、気持的な問題として、今ここまでやってきて、例えば文言についてもそうですし、各施策についてもそうですし、ではこれをこうしていきましょうという、まだどうも方向性が決まっていなくて、みんなきっと迷いを持っていらっしゃるような気がするんですよ、お話を。

だったら1回、ではメンバーで1回、その方向性をもう1回確認し合う場が、こういう協議会ではなくて.....

金澤委員 全部ではなくて、何かこの10人がここを、何項目でもいいから、こういうふうにしたいねと、何か方向性をちゃんと持たないと。あと何か目玉を作るのだったら何か皆で考えて、これが委員の目玉ですよみたいなもの。だって、皆でもっとまとめていかないと。

松永委員 だからその辺を.....

金澤委員 こっちの意見とこっちの意見を。

松永委員 どれもまた納得するような気がするので、1回、この10人というんですか、先生方も交えて、固まって先ほど吉村さんがおっしゃったけれども、本部、計画本部の方に上げていただけるようなものをやっぱり、こら辺で1つ固めないといけない。

金澤委員 やっているという意識を持ってないよね、こうでないと。

松永委員 そう、思うんですけども。やっぱりその辺、もしあれだったら委員で一番時間の取りにくい方をベースに、その時間にどこか小さなお部屋でも、ことぶき館でも構わないと思うんですけども。

吉澤座長 ことぶき館まで具体的に名前が出てきて、そういう方向で考えましょうというご意向としてやっていくということですか。

松永委員 逆に、あくまで小林さんがすごくそういうご発言いただいたので、皆さんいかがかな。私はやりたいですと思うんですけども、皆さん、いかがでしょうかね。

吉澤座長 でも、今日決定ではなくて、この中でもう少し、全体を終えるまでもうちょっと温めながら考えてさせていただいたらどうでしょうかしらね、そういう方向で。そうすればまた……どうぞ。

日高委員 すいません、違う話というか、素案の方なんですけれども、最初の方の1回目か2回目ぐらいの他の策定協議会で障害を持った家庭のことも出たと思うんですけども、この中に入っていないような気がして。

吉澤座長 障害って、大体入っていなかったですか。

日高委員 中間のまとめの中には入っていないような。

吉澤座長 中間の方。本素案には入っていたと思いますよ。これは、今までの懇談会やその他の策定委員会なんかのことで、素案の厚い方に、この関連でご意見をまとめてくださったはずですね。ただ、ここには障害の問題は入っていないという指摘でしょう。

事務局 障害児ことについて触れていないのは、特に今まで大きな論点がこちらとしてはなかったかなということなので、もし欠けているということであれば、それはこういうふうな、ここでこういうふうな議論があって、これは加えるべきだというふうにしていただければと思います。

日高委員 特に深い話し合いがあった記憶はないんですけども、というのは私の友人が障害を持ったお母さんで、ここにも話を聞きに来られていたんですが、その方が私の方に直接電話をしてきて、こういう委員会があるのならもっと検討してほしいということ言われたんですね。

吉澤座長 特に内容的にはきっかけ、どんな中身があるんですか。そのおっしゃったのは。

日高委員 深い話まではしていないんですけども、私自身もまだ勉強している身なのでと言ったら、じゃあ見に来ると言って、1回か2回、見に来ているんですけども、その方のその電話で、私も何か、子育てって本当にいろんな人がいらっしゃるから、孤立家庭、

孤立家庭というのが出ていますけれども、言葉を変えれば障害児を持っているおうちの方というのもある意味孤立家庭ではないかなと思って、悩みを相談できる人がすごく限られている家庭で、私もその友人と接するとき、どう接していいかわからない部分もちょっとあって、でもおそらく彼女は普通に接してほしいと思っていると思うんですけども、そういう、だから私もその障害児の家庭を、友達がいるからと理解しているわけでは全然ないんですけども、ただやっぱりこういうところに出すべきものではないかなと思って

吉澤座長 配慮として入ってもいいのではないかという。ご意見として、それは検討しましょうかね。入っているんでしょう、でも。

事務局 入っております。

吉澤座長 入っているんですよ。入っている。ここには今日のあれにはちょっと声が出ないから。

小林委員 それは今までの話し合いの中では出てきていなかったということですね。

吉澤座長 書いてある。ちょろっと書いてあるはずですよ。

事務局 書いてあります。ちょろっとではなくて、53ページから55ページまで。

吉澤座長 私もささやかながらちょっと申し上げた記憶があるから。

事務局 あゆみの家が中心になってこれからもっと相談しやすい、相談から療育にきちんとつなげるような形の方向性は出しております。

次世代計画に関連して、ちょっと障害を持つ親、保護者の方から、区長へのハガキという制度がありますけれども、それでご意見をいただいていたことがございまして、もう回答済みだったものですからちょっとここには入れていないんですが、その方のお話、その時の投書の話では、やはり子育てというのは、障害を持っていないお子さんの場合は、ある年齢が来ると終わるものなだけけれども、障害を持つ保護者の方の場合は、子育てが終わらないんだと。学校を卒業しても、その後社会の自立ということに関してもいろんなハードルがあるということで、そういうところを考えてほしいということでした。

あゆみの家の保護者会の方で、出前懇談会というのを要望がありまして、実は7月5日に私ども、出前懇談会に行く予定にしておりますので、もしお話を一緒に聞いてくださる方がいらっしゃれば、来ていただければと思います。7月5日の10時半から12時、あゆみの家出張懇談会を行う予定になっています。10時半から12時です。障害を持つ方への視点というのも重要だと考えております。

吉澤座長 ありがとうございます。

抜かしていたわけではないんでしょうけれども、ここではやっぱり十分なお話し合いのチャンスはなかったかもしれないけれども、入っていることは入っているんです、施策の中に。

松永委員 これ、あゆみの保護者の方。

吉澤座長 そうですね。

鈴木委員 1か月ほど前のニュースで、やはり2人子どもを殺してしまって、自分も自殺未遂をしたというお母様が、そのご長男が下の子が何か障害に関してすごく何か悩んでいたというような、本当に大変な事件もありますから、やっぱり何か、そういうお母さんのケアというのがとても大切なことで、抜かすことができないことなのかもしれないし、本当に程度はあるんですけれども、学習障害というか、ちょっと落ち着きがないような、本当に学校なんかでちょっとうちの子は浮いているなというようなお子さんを持つお母さんも、意外と周りの人はそんなことは大したことはないと言いながらも、お母さんはすごい悩んでいるというような一面もありますので、そのお母さん、障害児ということではなくても、何かそのお母さんの子育てに関する悩みというものの幅も、かなり広いものがあるのではないかと思います。

吉澤座長 あれですよ。懇談会にもあったと思いますが、誰でもどこでスッと行かれるところがほしいという。だから場所という物理的なものではなくて、心理的な状況を含めた、そういう場がたくさん作られることというのを待っているように思いましたけれどもね。おっしゃるのはそういうことになるんでしょうね。だから障害児だけのとか何とかという相談は専門的にありますから、むしろそういう日常的な中で交流ができる場が必要なのかもしれませんね。

他にございますか。もうそろそろ時間になってきたんですけれども、先ほど何かお話があった情報の伝え方とか事例なんかのことで、そういう状況を作り出していくようなことがあるといいですよ。

鈴木委員 やっぱり子育ては楽しいでしたよね。そういう声って、やっぱり悩みがあれば悩み相談コーナーというのがあるんですけれども、悩みがない人たちの声というのはなかなか発信しないんですよ。それで、悩み相談コーナーを読んで、「ああ、大変だな」と思って躊躇されるというのもありますから、何かうまくこの発信できるシステムみたいなコーナーでもいいんですけれども、そういうのを作れたらいいのかなと思います。

吉澤座長 何かご意見ある？ いろいろ、活動をしていらっしゃる中から。

鈴木委員 何かありますか。

よく高齢者のいきいきサロンの紹介とか、今社教さんとか、あと新聞なんかでも取り上げられていますよね。ああいうのでやっぱりいきいきと活動している子育てママたちとかいうのとか、そういうので何かつくとか、ページをとってみるとか。

松永委員 新宿区のフォーラムってありますよね。あれは男女共同参画系でしたっけ。女性の共同参画系ですよ。

事務局 地域懇談会に参加して、この檜のときでも、そんなすごい事業ではないんだけど、こういうことをしていますよみたいなことがたくさん聞かれますよね。ああいうのはどこかで伝えたいなというのをすごく思って、鈴木さんのおっしゃっている当事者のお話のあったようなことなんですけれども、こんなに地域で伝えていく人がいるんだというふうなのが伝わればいいのかと。民生委員さんでも民生委員としてではなくて、ちょっと学校の通学路に立ってくださっている方々がすごいちょっとした活動とかでもたくさんあるなど。

松永委員 下落合の公園を毎日清掃してくださる、毎朝清掃してくださる方がいらっしゃるんですよ。

事務局 何か、そういうのがたくさん集まったものができたら楽しいなというのと、あと当事者の方の楽しさを伝えたいというのは私もすごく同感で、本当に新聞記事とかを見ると、とても子どもを産みたくないような状況ですよ。そうではない、それで計画のタイトル募集とホッとする親子の会話を募集して、その計画では楽しさをもっとアピールしたいと思っているところなんですけど、実は今のところまだ応募者はゼロで、それで皆様にもご協力いただいて、ぜひ身近な方にちょっと書いてみたらとか、例えば口頭で言ってくださったのを例えばちょっと書いて代表で……

吉澤座長 書いてみたらと言って書いたのをそちらへ送ればいいのか？

事務局 ええ、いただくと、定期的情報ではないですけども、その計画の中に乗ってそれがいろんな家庭に配られるというイメージを持っているところですので、ご協力お願いします。

松永委員 この間の地域懇談会に来てくださった学校の先生が、松永さんこれ配りなさいよ、他に配りなさいよって、「はい」って言ってまだ配りに行っていないんですけども、でもせっかくなんだから配りなさいよと言って後押しをしてくださったので、そういうとこ

るでもPTAの応援してくれる先生がいる人とか、また必要になってくると思うので、ありますけれども、そんな形で何かお手伝いできれば。

だから、さっき言っていたフォーラムとかああいう冊子に、タイトル書かないですけれども子育て、楽しい子育てという、ああいう冊子なんかも……

吉澤座長 コーナーをつくる。

松永委員 いやいや、コーナーじゃないです。そういう冊子はもうちゃんと。フォーラムのフルカラー、中身は2色でしたよね。フォーラム。がんばる女性を応援する冊子なんです。

吉澤座長 だから、その中にそういう定期的に載せてもらうような。

松永委員 いや、中ではなくて、福祉部で。福祉部でぜひやる。書くということで取り組みとか、今もいろいろ保育園の取り組みをなさって、町の掲示板とかで拝見しているので、そういった取り組みを紹介、フォーラムは年1回の発行でしたよね、確か。年2回でしたっけ。

事務局 1回です。

松永委員 1回ですよ。だから、もしかしてフォーラムみたいに、でもフォーラム、あれは何で親しみやすいかという、登場人物が全部新宿区内でしょう。区内で活躍している女性、ではない人もたまに取材対象に載っていましたがけれども、だからすごく身近に感じると思うんですね。だから、ああいったものの子育て版、今がんばっている、今光っているお母さんとか、今子育てに取り組んでいる企業とか。

吉澤座長 きらめく子育てとかいう。そういうようなことですね。

松永委員 企業でこういう制度を取り入れたらうまくいきましたという事例とか、そういう情報誌を作るというのも、もしかしたら1つの目玉にできないかしらと思うんですけども。

金澤委員 小さなあれでは、前、小学校の校長先生が、私たちの先輩、子育て先輩のお母さんとちょっと話をしていて、ちょっといいことを書いて、自分で刷って、幼稚園とかに渡してくれたんですね。そうすると、それを読んだお母様が、「この話は絶対金澤さんね」とかと来るのね。「これはそうでしょう」とか、「ええ、そうよ」と、ちょっとした話を、子育ての楽しかったこととか何とかを随分出してくださったんですよ、前。ああいうのもっと広げていけばそんなお金もかからないし、随分ちょっとしたあれで出してくれましたね、園便りみたいな中に載せてくれて。

松永委員 学校の連絡帳とか幼稚園とか保育園の連絡帳はすごい救いというか、楽しみがあ

りませんか。あれを読むだけで、いいことが書いてあろうと、悪いことが書いてあろうと、もうそれだけが子育ての、寝ていますから帰ったら、帰ったら寝ているわけですから、それだけがもう私のすべてみたいな気が続くわけですね。

だから、そういったところから繰り出された言葉って、先生の応援メッセージってあるじゃないですか。そういうのが1つずつ載っかるようなあれですよ。今、吉村さんがぜひ応募して、応募の輪を広げていく。そういうところからきっと拾えるかもしれないです。金澤委員 もっと楽しいことをやっぱり、どんどん言っていかないと、何か情報を伝えるような。

鈴木委員 「新宿H a H a h aクラブ」なんかも、はみ出しコーナーというのに公募したんですね。それでその公募してもほとんど来なかったです。ただメンバーがみんな自分で書いたり、友達にお願い、お願いと1人ずつ頼んで、やっぱり来ないものなんですね。

金澤委員 自分たちが出ていってインタビューしないと。

鈴木委員 そうそう。ほとんど来なくて、みんなこれ自分で書いたとか、頼んだ人、本当一本釣りみたいな感じで、頼んだ人が書いてくれたというのが多かったです。

吉澤座長 その辺を何とかできればということですかね。

鈴木委員 そうですね。

吉澤座長 大体どうでしょうか。そろそろ時間にもなってきましたが、これこそはという、一言言っておかなければなんていうことはよろしいですか。大分、具体的な課題が出ましたですね。検討課題もあったんですが。

全体の懇談会が終わったところで、もう少しまとまって方向性を皆さんで出していくようにしたらいかかですか。よろしいですかね。

何か、変更がありますか。

事務局 では、後からお配りした資料をご紹介します。

メールの中で私がちょっと紹介してそのまま本物を持ってこなかったんですが、立川市の方で子育て応援ネットというのを参加者を募っているということです。これは、立川市の次世代育成支援計画にあたる子ども総合計画、子ども21プラン作りで策定に取り組んでいる市民の発案ということで、こういうふうな形で実現していることなので、先ほど何かしらの提案みたいなご意見もありましたので、ご参考になればなというふうに思いました。

ここでも、市内に50から60の団体があるということで、こういうものをつかんで、それをネットワーク化していこうということで、初回だけは市がやりますけれども、2回目以

降は自主的にやっていくという形だそうです。一応ご紹介です。

吉澤座長 入れかわり立ちかわりというのがいいですね。

事務局 立川なので立ちかわりという、ネーミングもなかなか難しいですけども。

吉澤座長 あんまり入れかわってしまうと困ってしまうのよね。ちょっと余計な話です。

事務局 それで、この論点の中で十分かということについて、私ども一応、とりあえず十分だということでここに計画をしているんですが、その辺はまだ実は十分ではないよというご意見があればそれは論点として残すべきだと思うんですが、その辺はいいだろうということであれば、落としていきながら、少し整理をしていった方がいいのかなというふうに考えています。

吉澤座長 それは次回以降ということだと思いますが。

事務局 はい。

吉澤座長 ですから、今日、要領を得たといいましょうか、中間報告でござんいただいて論点を出していただきましたから、またこれをもう一度検討して下さって、懇談会にもこれからお出になる人もいらっしゃるから、それらを念頭に置いて関わっていただくといかがかしらと思います。よろしいですか。

事務局 はい。

では今後の予定を。まだ、懇談会が3回ございまして、明日が柏木地域センターで2時からですね。それから、25日が角筈の地域センターです。ごめんなさい。23日がタンスの地域センター、それから25日が角筈センター。そして、その次からが区長と話す新宿トークとの共催となりまして、29日が四谷、30日が若松、7月3日が落合第1ということで行われることになります。

その7月3日が終わりましたら、この論点、素案への意見のまとめを、それも含めた形で事務局で整理いたしますので、翌週かその次の週にもう一度、策定協議会を開催させていただきたいと思います。

吉澤座長 ということは、7月5日の週ですか。

事務局 そうですね。よろしいですか、7月9日の午前中以外はいかがでしょう。

吉澤座長 私は結構です。金曜日の午前中。

松永委員 金曜日の午前中。

吉澤座長 だめな方がいらっしゃる。

事務局 それともう1つが7月7日の午後なんです。いかがでしょうか。その週だとそれ

ぐらいしか、ちょっと汐見先生の都合を先ほど、ちょっとご体調が悪くてお電話をさせていただいた中で伺ったので。

吉澤座長 全員が揃うということだと、私も7日はちょっとだめなんですけれども。

事務局 では、7月9日の午前中の方向で調整させていただいて。

吉澤座長 汐見先生がいらっしゃるのは、9日。

事務局 またそれでは正式にはご連絡をさせていただきます。もうちょっと調整をして。

吉澤座長 そうですね。わかりました。そうすると、7月の1週か2週かのところですね。

ぐらいのところですね。

事務局 はい。

吉澤座長 ちなみに鈴木さん、いつごろがよろしいですか。こっちがだめだとして。ちなみに。

鈴木委員 金曜日の午前中でしたら、2日とか16とか23とか、全部あいているんですけども、9日、社教の部会があったり研修が入っていたりして、研修もあるので、ちょっと9日以外なら金曜日の午前中は大丈夫なんですけれども。

事務局 16日でもよろしゅうございますか。

吉澤座長 私は構いませんけれども。

事務局 では16日の午前中に会議室がとれれば、16日の午前中に。

吉澤座長 皆様はよろしいですか。声になければいいんでしょうか。よろしいでしょうか。16日の午前中ですね。

事務局 はい。

吉澤座長 どうなんですか、汐見先生は。

事務局 汐見先生は4時まで大丈夫なので、この日は。鈴木さんは午後だと多分都合が悪いので午前中に。

吉澤座長 午前中がよろしいですか。では、よろしいですか、午前中で。では、金曜日の午前中、もう一度、16日の10時から.....10時ですか、9時半ですか。

事務局 10時から12時ぐらいでよろしいでしょうか。ちょっとただ、会議室をまだ、ちょっと未定なので。

吉澤座長 ここは学校の跡なんでしょう、ここは。小学校の跡。

金澤委員 25日は角筈がありますよね、地域懇談会。この間、これの資料をいただいたんですけども、これも25日ですよ。ミタカと一緒にいますよね。こっちを出た方が

いいんですか。

事務局 いいえ。

金澤委員 これをいただいたから。私はちょっと25日は他の予定が入っていたんですけども、それがキャンセルになったので、角筈に出ようかなと思ったけれども、これが来たから、ではこっちに出た方がいいのかしらと思って。今日ちょっとお聞きしようかなと思って。

事務局 当初お願いしていらっしゃる委員の方は角筈の方にぜひお願いしたいんですが、それ以外で空いている方はどちらでも。別に私の話を聞いても面白くないと思うので。

金澤委員 子育ての問題だから、こっちに出た方がいいのかなと、今日お聞きしようと思って。

事務局 はい。当初お願いしていらっしゃる方はできれば懇談会に。

金澤委員 わかりました。

吉澤座長 その雰囲気というのも、ちょっと見たらいろんな話が聞けそうなので。ミタカは随分いろいろさっきからやっている。

松永委員 柏木は駅から何分ぐらいですか。

事務局 駅からだと、大久保の駅から15分ほどなんですけども。

松永委員 大久保。

事務局 一番丸の内線の西新宿が近いです。

松永委員 西新宿。

事務局 行き方については後でご説明します。結構行きづらいです。

吉澤座長 本日の第7回策定協議会はこれで終わらせていただきます。ありがとうございました。

午後3時05分閉会